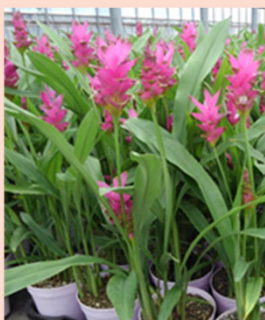


- 愛知県海部地域では、**県育成品種「アイルージュ」の切り花及び鉢花生産**が行われている。
- 切り花農家の余剰球根を鉢花生産に利用する体制が確立しており、**鉢花生産が切り花農家の生産状況に影響を受けることが課題**となっている。
- **切り花と球根養成を両立する技術を開発し、栽培マニュアル**を作成した。
- 施肥改善指導により**球根生産量を向上**した。
- **球根(苗)供給システム構築への手引き**を作成した。

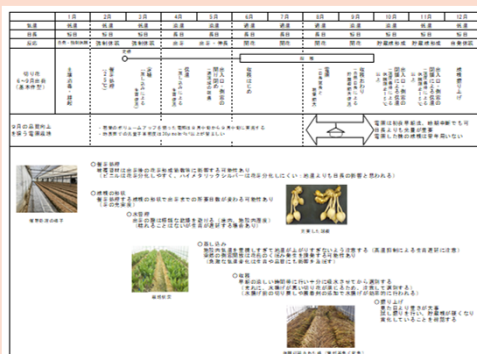
## 具体的な成果

### 1 クルクマ栽培マニュアルを作成

■「高品質な切り花と球根養成が両立した栽培技術」及び「良質な鉢花の早期出荷技術」を確立し、クルクマ栽培マニュアルとしてまとめた。

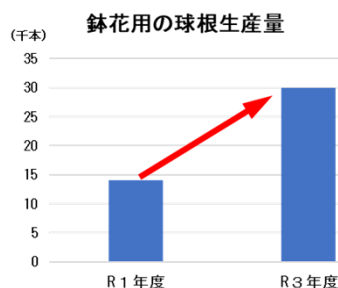


「アイルージュ」



### 2 切り花農家が鉢花向け球根を増産

■施肥管理の指導により、切り花の品質を落とすことなく、**球根の生産量が向上**した。



### 3 球根や組織培養苗の供給システム構築への手引きを作成

■海部地域の事例から想定される球根及び苗の供給システムのステージ変化と課題を分析し、手引きとして取りまとめた。

## 普及指導員の活動

### 1 実証試験の運営・実施

■生産者と農業総合試験場等の関係機関が連携し、**現地試験を実施**

R2年度: 2か所、R3年度: 3か所



### 2 試験結果の検討と現地指導

■試験結果の**検討会議を開催**

■施肥試験結果から、**切り花農家の施肥管理方法を指導**

### 3 生産者と実需者との連絡調整

■**産地と実需者の情報交換会を開催**

## 普及指導員だからできたこと

・地域に密着し、**生産者や関係機関と密に意見交換をすることで、現場解決型の試験を実施**でき、より現実的なマニュアルが作成できた。

・農業革新支援専門員が現地試験や検討会を統括することで、**試験場や他県の新技術を早期に産地に導入**できた。

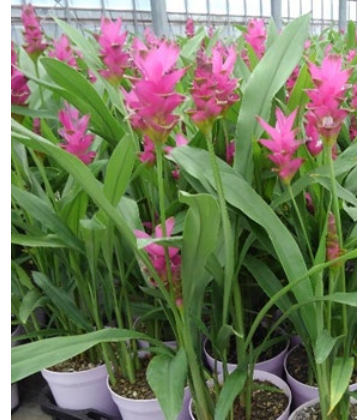
愛知県

## クルクマ鉢花生産における計画生産体系の確立

活動期間：令和２年度～（継続中）

### １．取組の背景

愛知県海部地域では、クルクマの県育成品種である「アイルージュ」の切り花及び鉢花生産が行われている。クルクマの球根は高価であるため、鉢花生産を行う場合、球根供給元となる切り花農家の協力が必須である。このため、切り花農家の生産状況によって供給量や質が大きく変化し、鉢花生産に必要な球根を安定的に確保できていない。



「アイルージュ」

また、市場から高い要望のある６月出荷の良品生産技術の確立が急務である。

そこで、切り花の収量や品質を維持しつつ良質な球根が確保できる手法やその代替手段、さらには鉢花の促成栽培技術について試験研究機関を含めた関係機関と連携し確立するとともに、球根や苗の供給システム構築への手引きを作成し経営強化を図る必要がある。

### ２．活動内容（詳細）

令和２年度及び令和３年度の生産体制・技術確立支援事業を活用して、クルクマ鉢花生産における計画生産体系の確立に取り組んだ。

#### ○実証試験の運営・実施

現場の課題を分析し、農業総合試験場等の関係機関と連携し、令和２年度は２か所、令和３年度は３か所の実証ほを設置し、下記の試験を行った。

- ・高品質な切り花生産と球根養成の両立を可能とするため、時期別の窒素施用量が切り花及び球根の生産に及ぼす影響について検証した。
- ・良質な鉢花を６月に出荷するため、無加温パイプハウスを用いた催芽処理やＬＥＤ補光技術の効果を検証した。

#### ○試験結果の検討と現地指導

- ・生産現場での実証及び農業総合試験場での試験結果について検討会議を開催した。
- ・試験結果に基づき、現地で切り花農家に対し施肥管理指導を行った。

#### ○生産者と実需者との連絡調整

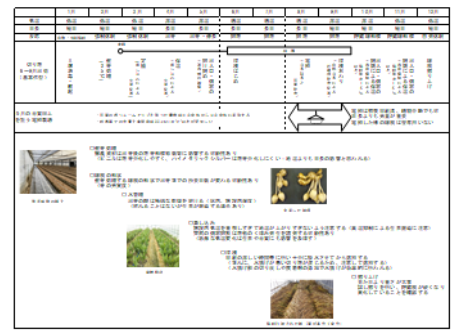
- ・海部地域での球根及び苗の供給システムのステージ変化と課題を生産者から聞き取った。

- ・産地と実需者の相互理解の醸成や連携強化のための情報交換会を開催した。

### 3. 具体的な成果（詳細）

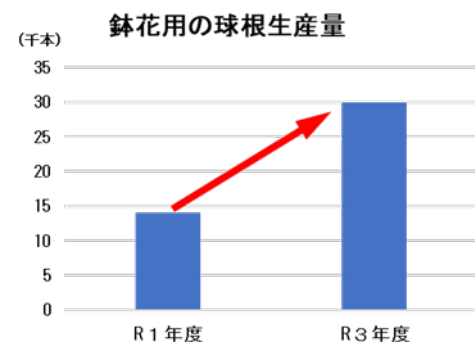
#### ○クルクマ栽培マニュアルを作成

短日期の窒素施用を制限することで、球根の肥大を促進させる施肥管理方法を明らかにした。また、催芽条件（20～30℃の遭遇時間）を明らかにするとともに、弱光下の二層ベンチ下段部に置いたクルクマ鉢花に高輝度 LED を照射することで、開花の前進化と品質向上が可能であることを確認した。これらの結果を「高品質な切り花と球根養成が両立した栽培技術」及び「低コストで良質な鉢花の6月出荷技術」としてとりまとめ、クルクマ栽培マニュアルを作成した。



#### ○切り花農家が鉢花向け球根を増産

試験結果を基に切り花農家に施肥管理の指導を行い、切り花の品質を落とすことなく、球根の生産量が令和元年度の14千個から30千個へ増加した。



#### ○球根や組織培養苗の供給システム構築への手引きを作成

海部地域の事例から想定される球根及び苗の供給システムのステージ変化と課題を分析し、他産地でも活用可能な、球根（苗）供給システム構築への手引きを作成した。

### 4. 農家等からの評価・コメント（飛島村 鉢花生産者）

「アイルージュ」は夏期の鉢花として市場評価が高いが、希望する球根数が切り花生産者から供給されないため、鉢花生産量が伸び悩んでいた。普及指導員の支援により切り花農家の球根生産量が増加し、令和4年度用の球根が十分確保できた。また、栽培マニュアルは、クルクマの基本的栽培技術から、最新のLED利用技術まで幅広く記載されており、栽培経験の浅い農家からベテラン農家まで利用できる内容になっている。今年度はLED照射技術を活用して6月からの早期出荷にも取り組む予定である。

### 5. 普及指導員のコメント（海部農業改良普及課・主任専門員・石川高史）

実証試験で短日期の窒素施用が貯蔵根の肥大を阻害することが明らかとな

ったため、施肥設計を切り花農家とともに見直しを行った。10月以降の施肥を中止した結果、切り花生産量を減らすことなく球根生産量が増加し、鉢花農家の希望数量を配布することができた。催芽温度やLED照射についても、実証結果を丁寧に説明することで鉢花農家の意識を変え、6月出荷に成功する生産者が増えてきている。生産者や関係機関と日頃から密に意見交換を行っていたことから、地域の実情に合った実証試験が実施でき、より現実的なマニュアルを作成できたと思う。

## 6. 現状・今後の展開等

クルクマ鉢花生産のボトルネックは球根の供給量である。球根の供給元である切り花農家の栽培管理について支援を集中的に行った結果、令和3年度には鉢花農家の希望する球根3万個が全量切り花農家から供給された。また、新たに催芽処理やLED照射技術を利用した6月からの早期出荷に取り組む農家も現れ、産地の強化が図られている。

今後は、さらなるクルクマ鉢花の増産にむけ、栽培マニュアルを活用して鉢花生産者の球根自家増殖を推進していく。